

# 「社会教育実践型研修会」

## （文部科学省委託：社会教育士フォローアップ研修会）

### 事業の内容

- 日時 (1) 令和7年8月29日(金) オンライン  
(2) 令和7年10月3日(金) 対面  
(3) 令和7年10月4日(土) 対面
- 場所 道民活動センタービル かでる2・7
- 参加者 32名  
内訳 (1) 32名 (2) 18名 (3) 21名  
社会教育士称号取得者 28名



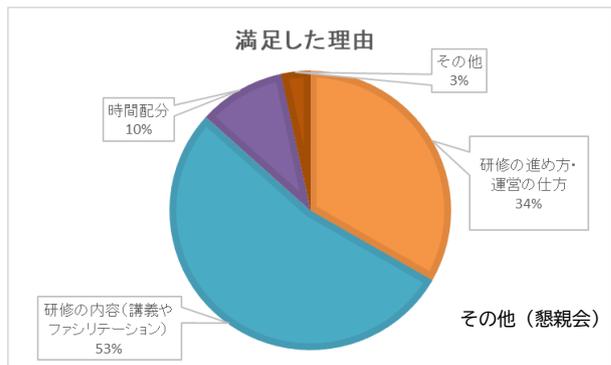
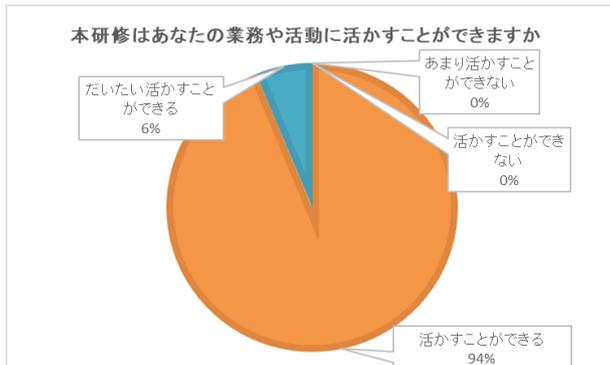
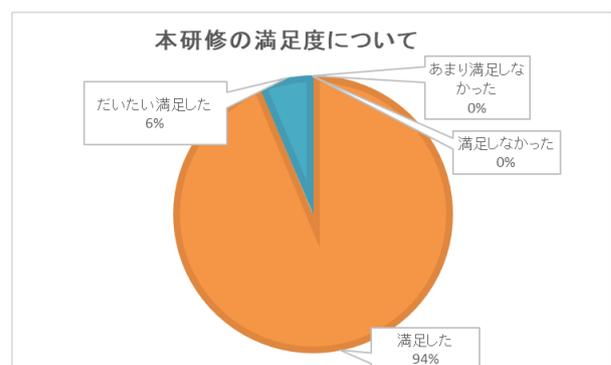
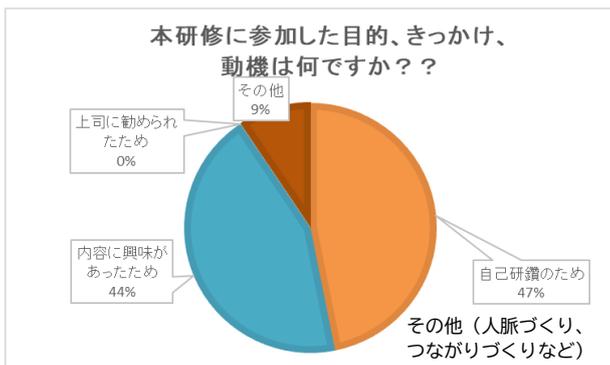
## I プログラム

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
8月29日(金)					オンライン (Zoom)				
					受付	開会	講義	事例発表	情報交流
～理論を学んだ後、実践したい事業企画を各自で作成～									
10月3日(金)					対面 (かでる 820 研修室)				
					受付	実践交流		ワークショップ	
10月4日(土)	対面 (かでる 820 研修室)								
	スキルアップ研修		ふりかえり	閉会					



社会教育士

オンライン	<p><b>【講義】</b> 「社会教育人材を中核とした社会教育の推進等に係る最新の動向」 講師：大正大学教授 牧野 篤 氏</p> <p><b>【事例発表】</b> 「社会教育士の実践事例から学ぶ、関係機関等との連携方法」 モデレーター：大正大学教授 牧野 篤 氏 事例発表者： ①「社会教育士×学校」土別市地域学校協働活動推進員 石川 里紗氏 ②「社会教育士×地域」ふくふく家族の会会長 福屋 聖恵氏 ③「社会教育士×行政」認定NPO法人カルチャーナイト北海道副理事長 加賀 千登世氏</p>	<p><b>【内容】</b> これまで社会教育主事講習の中で学んできたことを振り返り、受講者は、社会教育人材が地域づくりのキーパーソンとして期待されていることを改めて認識することができた。また、道内で活躍する3名の社会教育士が、「学校」「地域」「行政」の視点からの実践事例を通して、今後の社会教育活動の可能性の具体に迫ることができた。</p>
対面	<p><b>【実践交流】</b> 自身の「やってみたい」を叶えるための対話 <b>【ワークショップ】</b> 実践交流を踏まえ、関係機関等との連携方法など実際的な事業を企画 進行：北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課 主査 森 健太郎</p>	<p><b>【内容】</b> 参加者は、事前課題として、地域の実情をワークシートに記入した上で参集し、各自の地域において参加者自身が実践したい事業の企画を持ち寄った。ワークショップの中で、「どのように関係機関と連携するのか」という視点から社会教育人材のネットワークを意識しながら、参加者同士で企画を練ることで、実現可能な事業企画を練ることができた。</p>
	<p><b>【スキルアップ研修・情報交流】</b> 「グラフィックファシリテーションの技法」 講師： 株式会社たがやす代表取締役 鈴木 耕平氏 ビジュアルプラクティショナー 出村 沙代氏</p>	<p><b>【内容】</b> 社会教育士に必要とされているスキルである「ファシリテーション能力」について、グラフィックファシリテーションの技法を学ぶことができた。会議や議論の場において内容を分かりやすく描く技法について、基本的な考え方や応用など、ファシリテーショングラフィックの経験のある社会教育士が補助しながら学ぶことができた。</p>



## III 参加者の声

- ・ 牧野先生の「人を中心とした社会教育」の講義では、社会教育士が「学びのオーガナイザー」として地域の中核を担う役割が明確に位置づけられており、これまで手探りで進めてきた自分の活動に理論的な意味づけができた。
- ・ 社会教育士と対面でお会いすることができたこと、様々な現場で活躍されている方との意見交換ができたことが大変貴重な時間だった。
- ・ 今回の研修でも、まず皆さまからたくさんのパワーをいただきました。これは大変ありがたいことであり、何よりも、今自分が取り組んでいる活動を続けていくうえで大きなモチベーションとなった。
- ・ 今後、取り組む方向性を考える機会を得ることができ、ファシリティ・マネジメントに関する有効性ある手段を学んだ。
- ・ グラフィックファシリテーションは、グラフィック脳で物事を考えるということがとても参考になった。



## IV 担当者からひとこと

社会教育主事講習修了後の学びの継続やつながりの創出をねらいとして本研修を実施しました。道内はもとより、東京や兵庫からも御参加いただき、研修に参加された皆さんは、地域の実態の共有や今後の活動の方策など学び合うことができました。今後も当センターとしましては、今後も社会教育士が共に学ぶ場や、ネットワークを構築できるよう、支援していきたいと考えています。